

| | | | |
|----------------|--|------|--------|
| グループ名 ・代表者名 | 青木 一政 (福島老朽原発を考える会) | 助成金額 | 100 万円 |
| 連絡先など | 東京都新宿区神楽坂 2-19 銀嶺会館 405 共同事務所 AIR | | |
| 助成のテーマ | 福島原発震災に伴う子どもの生活環境の放射能汚染実態調査と被ばく最小限化のための課題明確化 | | |

【調査研究の概要】

本調査研究は下記の二点を目的として行う。

- ① 市民自身が放射線測定器などを用いて子どもの生活環境での放射能汚染の実態を明らかにする。
- ② 子どもたちの被ばく量を最小化するために市民として取り組むべき課題を明確化する。

この調査研究活動は、子どもの被ばく最少化のための市民の実践活動と一体の活動として行うところに特徴がある。実践活動からの要求に応える形で調査研究活動の具体的課題を修正しながら進める。

【調査研究の経過】

2011 年 3 月：γ線測定器を福島周辺へ送り届ける活動を実施。その結果、福島市内の学校の汚染が高いことが判明。
 4 月：福島市内の入学式延期を求める活動。福島県中通地域で学校の 76%が放射線管理区域に相当することを分析。
 5 月：「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」の結成。学校の除染要求、文科省への 20³μSv 基準撤回要求活動。
 6 月：江東区での調査。南部スラッジプラントからの周辺への二次汚染について都と江東区へ申し入れ。
 7 月：三郷市での調査。三郷市への測定、除染の申し入れ。市民向けに「内部被ばく」をテーマにした講演会実施。
 5~9 月：福島の子どもたちを対象にした尿検査。子どもたちが内部被ばくしていることを明らかにした。県民健康管理調査の見直し要請。

【現在までの成果と今後の展望など】

- ・福島、江東区、三郷市等で放射性セシウムの汚染実態、子どもの内部被ばく状況を明らかにした。これらを通じ被ばく最少化のための取り組みにつなげることができた。
- ・「除染」キャンペーンにまどわされないよう、「除染」効果の検証、監視。子どもの被ばく最少化のために予防の観点からの内部被ばく検査。

| 資金計画の概要 (金額単位: 千円) | | | 充当する資金の内訳 | | |
|--------------------|--------------------|-------|-----------------|---------------|-------|
| 支出費目 | 内 訳 | 支出金額 | 高木基金の 助成金を充当 | 他の助成金 等を充当 | 自己資金 |
| 旅費 | 東京・福島往復 8 回/月×12ヶ月 | 2,000 | | | 2,000 |
| 資料費 | | | | | |
| 機材・備品費 | ラボ設備一式 | 3,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 会議費 | 2 万円×5回 | 100 | | | 100 |
| 印刷費 | 報告書 5 万円×4 回 | 200 | | | 200 |
| 協力者謝礼など | 技術支援謝礼 20 人・日 | 400 | | | 400 |
| 外部委託費 | | | | | |
| その他 | | | | | |
| 合 計 | | 5,700 | 1,000 | 1,000 | 3,700 |

参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・ <http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/> フクロウの会ブログ
- ・ <http://kofdomofukushima.at.webry.info/> 子どもたちを放射能から守る福島ネットワークのブログ

高木基金 2011年度緊急助成 中間報告会

子どもの生活環境の放射能汚染実態調査と 被ばく最小限化のための課題明確化

2011年10月1日

青木一政 （福島老朽原発を考える会）

調査研究の狙い(1)

[背景]

- 国、行政において放射能汚染状況の調査や対策が行われているが、子供たちの生命と健康を最優先にした調査や対策となっていない。
- 大学や公的研究機関での汚染実態調査も行われているが、放射線に最も敏感な子どもたちに焦点を合わせた調査研究は少ない、また被害最少化のための実践的活動と結びついた研究は少ない。

調査研究の狙い

[本研究の狙い]

- ① 福島原発震災により放射能汚染が懸念される**子ども**の**生活環境の放射能汚染実態の調査**。
- ② 子どもたちの被ばく量を最少化するために**市民として取り組むべき課題を明確にする**（行政に働きかけて実現することを含む）。

[本研究の進め方]

- 子どもの被ばく最少化のための**市民の実践活動と一体の活動**として行う。
- 実践活動からの要求に応える**形で調査研究活動の課題を修正しながら進める。

メンバーと構成団体



[緊急助成申請研究メンバー]

青木一政 福島老朽原発を考える会

阪上武 福島老朽原発を考える会

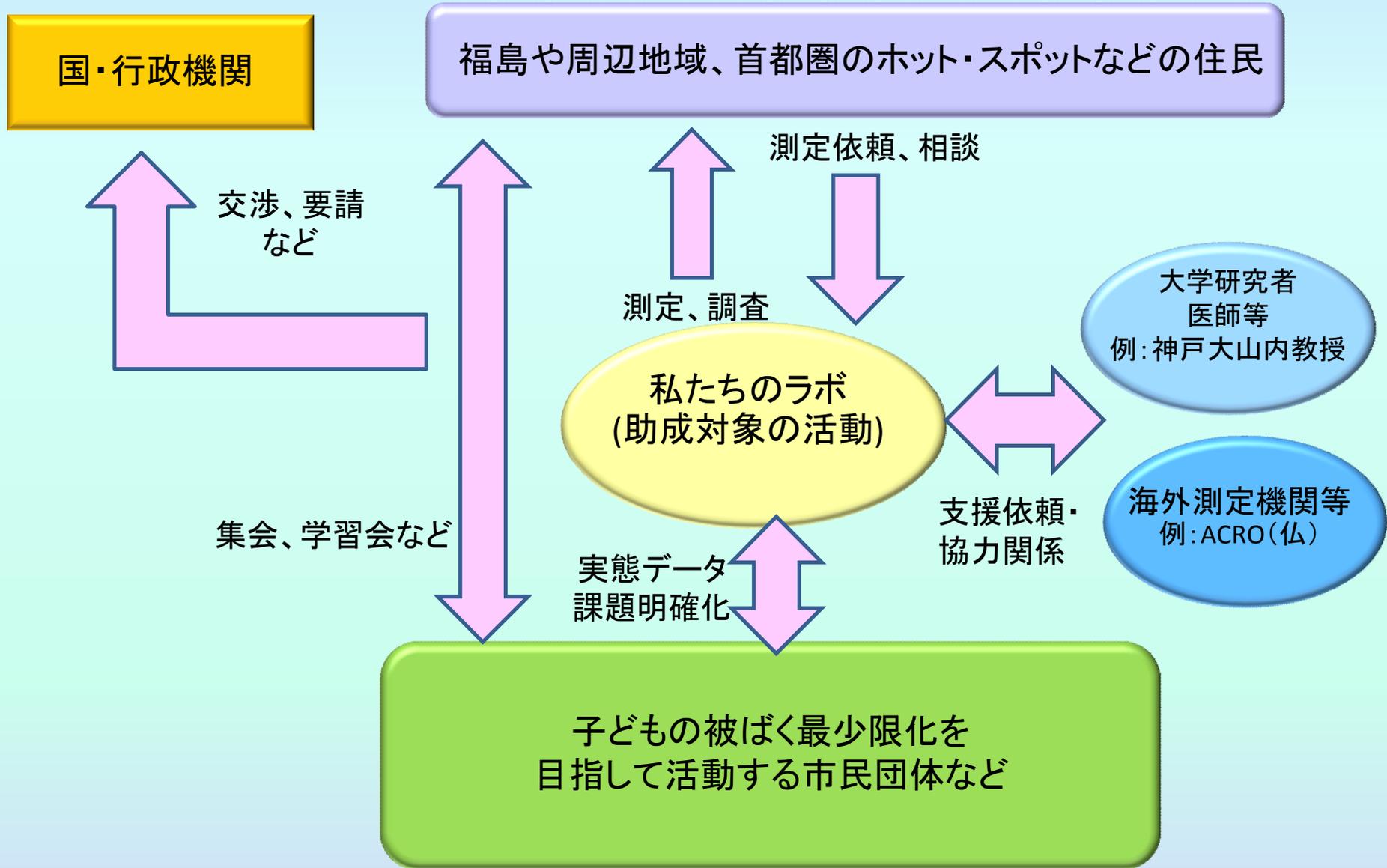
中手聖一 子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

富山洋子 日本消費者連盟

協力: アイリーン・美緒子・スミス グリーン・アクション



私たちの「ラボ」のイメージ



予算計画

| 支出費目 | 支出全体の金額(千円) | 助成金を充当する金額(千円) | 他資金の充当金額(千円) | 備考 |
|--------------------|-------------|----------------|--------------|--|
| 旅費 | 2,000 | 0 | 2,000 | 福島往復 8回/月×12カ月 |
| 機材・備品費 (ラボ設備一式) | 3,000 | 1,000 | 0 | γ線サーベイメータ:アロカTCS171(550:発注・納入済み)、食品測定器(今後計画) |
| | | 0 | 1,200 | 部屋代 |
| | | 0 | 800 | 室内改装、測定器設置等 |
| | | | | Ge半導体測定器 (他団体からの支援を打診中) |
| 会議費 | 100 | 0 | 100 | |
| 印刷費 | 200 | 0 | 200 | |
| 協力者謝礼 | 400 | 0 | 400 | |
| 合計 | 5,700 | 1,000 | 4,700 | |

事例(1) 福島県内の学校の汚染調査

| 日付 | 項目 |
|--------|--|
| 3月20日頃 | 米NIRSから送られたγ線測定器10台を福島周辺へ送り届ける活動 |
| 3月31日 | 福島市内の学校の汚染調査 ⇒ 入学式延期を求める活動 |
| 4月5～7日 | 福島県が県内の学校1,400カ所を測定 |
| 4月10日 | 福島県内の学校の76%が放射線管理区域に相当する線量であることを分析 |
| 4月15日 | 4/15高木文科相発言「目標は20ミリシーベルトで、(基準厳格化により)学校を頻繁に移動させることはできない」。 |

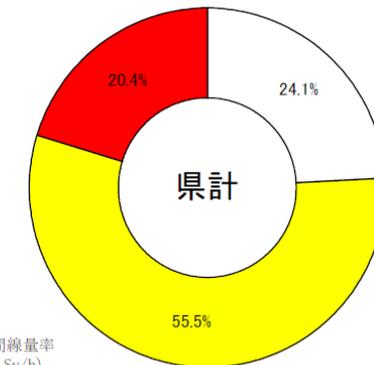
| 市町村 City | 調査校 School | 調査場所 Research points 測定ポイント Measured points | 測定値 (cpm) |
|------------------|---|--|--------------|
| 福島市 Fukushima | A | グラウンド School yard | 3,100 |
| | | 芝生 Lawn | 3,000 |
| | | 側溝(U字溝) Side ditch | 13,000 |
| | B | 遊具の下の地面 Ground under the playing equipment | 2,600 |
| | | 池 Pond | 500 |
| | | 遊具の下の地面 Ground under the playing equipment | 1,000 |
| 川俣町 Kawanata | C | グラウンド School yard | 1,100 |
| | | 芝生 Lawn | 3,000 |
| | D | 側溝(グレネダグ) Side ditch | 2,300 |
| | | 遊具の下の地面 Ground under the playing equipment | 3,900 |
| E | グラウンド School yard | 1,400 | |
| | グラウンド School yard | 2,400 | |
| | 側溝(U字溝) Side ditch | 8,000 | |
| F | 遊具の下の地面 Ground under the playing equipment | 2,400 | |
| | グラウンド School yard | 1,800 | |
| G | グラウンド School yard | 1,500 | |

現在の福島県におけるスクリーニングの基準は以下の通り。(3月14日引き上げ)
 部分除染 13,000~100,000cpm 全身除染 100,000cpm
 Screening standard in Fukushima prefecture at the moment is described below.
 (It was raised up in 14th Mar - after the earthquake)
 Partial decontamination 13,000~100,000cpm Whole body decontamination 100,000cpm



「福島県放射線モニタリング小・中学校等実施結果」の集計

| 方部 | 空間線量率 (μ Sv/h) | 校数 | 割合 |
|-----------------|------------------------|-----|--------|
| 県北 | 0.6未満 | 4 | 1.0% |
| | 0.6-2.2 | 166 | 42.5% |
| | 2.3以上 | 221 | 56.5% |
| 県中 | 0.6未満 | 158 | 34.6% |
| | 0.6-2.2 | 207 | 45.4% |
| | 2.3以上 | 91 | 20.0% |
| 県南 | 0.6未満 | 56 | 42.4% |
| | 0.6-2.2 | 75 | 56.8% |
| | 2.3以上 | 1 | 0.8% |
| 会津 | 0.6未満 | 59 | 23.4% |
| | 0.6-2.2 | 193 | 76.6% |
| | 2.3以上 | 0 | 0.0% |
| 南会津 | 0.6未満 | 37 | 100.0% |
| | 0.6-2.2 | 0 | 0.0% |
| | 2.3以上 | 0 | 0.0% |
| 相双 (避難地区を除く) | 0.6未満 | 4 | 3.8% |
| | 0.6-2.2 | 80 | 76.2% |
| | 2.3以上 | 21 | 20.0% |
| いわき | 0.6未満 | 77 | 29.2% |
| | 0.6-2.2 | 187 | 70.8% |
| | 2.3以上 | 0 | 0.0% |
| 県計 | 0.6未満 | 395 | 24.1% |
| | 0.6-2.2 | 908 | 55.5% |
| | 2.3以上 | 334 | 20.4% |



空間線量率
(μ Sv/h)

0.6未満 「管理区域」基準以下の放射線が観測された学校*1

0.6-2.2 「管理区域」に当たる放射線が観測された学校

2.3以上 同区域で「個別被ばく管理」が必要となり得る放射線が観測された学校*2

※「同モニタリング結果」では「1m高さ」と「1cm高さ」の測定値があるが、他の資料との整合性から「1m高さ」で集計

事例(1) 福島県内の学校の汚染調査

| 日付 | 項目 |
|----------|---|
| 4月17日 | 福島県内の市町村長、教育委員会宛の「進言書」を提出 |
| 4月18-20日 | フクロウの会ブログに福島市、郡山市などの子どもを持つ親たちからの書き込みが殺到。3日間で650件に。 |
| 4月25日 | 福島市内で子どもをもつ親たちの集会に100名以上が参加 |
| 5月1日 | 「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」が発足した。 |
| 5月2日 | 文科省との交渉 |
| 5月23日 | 福島から親たちが文科大臣に面会を求めて来京。 ・・・学校の除染、「1ミリを目指す」(文科省)につながった。 |

[ブログへの書き込み例]

・・・子供たちは大人の言うとおりにしか動けません。学校に行ったら先生の言うとおりにしか動けません。どうか子供たちを守ってあげてください。・・・



事例(2) 東京周辺のホット・スポット汚染調査

| 日付 | 項目 |
|----------|---|
| 5月21～22日 | 江東区の”No!放射能「江東子どもを守る会」の依頼で江東区の幼稚園、学校、公園などの放射線量測定。 |
| | 江東区にある南部スラッジプラント周辺およびその風下方向で線量が高い場所があることを発見。 |
| 6月7日 | 「子どもを守る会」として東京都と江東区へ緊急要望書を提出。記者会見。 要望書でスラッジプラントからの周辺への二次汚染防止 を盛り込んだ。 |
| 6月12日 | 都内の各地域の会の連合として”No!放射能「東京連合子どもを守る会」”が発足。継続して活動中。 |



事例(2) 東京周辺のホット・スポット汚染調査

| 日付 | 項目 |
|-------|--|
| 6月19日 | SCR misatoの依頼で三郷市内の学校周辺などを測定。学校正門付近の小川沿いなどで局所的に線量の高い個所を発見。 |
| 7月5日 | SCR misatoが三郷市へ詳細な調査や表土入れ替え措置、学校給食の安全性確保などの 申し入れ 。記者会見。 |
| | ホットスポット地域での内部被ばくなどについての関心が高まる。 |
| 7月31日 | 三郷市内で村田医師(阪南中央病院)を講師に招き、 低線量被ばく、内部被ばくについての講演会を開催 。 |



事例(3) 福島の子どもたちの内部被ばく調査

| 日付 | 項目 |
|--------|--|
| 5月2日 | 福島から東京へ向かう車中での会話、「子どもたちはきっと内部被ばくしている。何とかそれを測定できないだろうか」 |
| 5月上旬 | ホールボディカウンタで測定できないか模索 |
| | 土、水などの測定に協力いただいているACRO(仏)に相談。尿検査で検出できるかもしれない。 |
| 5月15日頃 | 子ども福島ネットのMLで募集⇒わずか10分で予定数の2倍の応募 |
| 6月末 | 10人中10人全員の尿からセシウムを検出 |
| 6月30日 | 政府原子力災害対策本部に対して内部被ばく検査をするよう求めて交渉 |



French Non Governmental Organization for Radioactivity Control
Independent laboratory of radioactivity analysis
Association loi 1901 - SIRET : 950 369 868 00027 APE : 7120B
 130 rue de Tignes - 34000 MESSIGNOS-VALENTIGAN - FRANCE
 Tél. : (+33) 2.31.94.35.34 Fax : (+33) 2.31.94.85.31
 Email : info@acro-radio.com
 N°TVA : FR 62 950 369 868

Analysis Report

RAP110617-OCJ(01)-v1

SAMPLE IDENTIFICATION

Sample's nature : Urines
 Reference date : May, 20th 2011
 Unit : Bq/l

RESULTS (Bq/l)

| ACRO's identification | Sample No. | Sex / Age | Cesium-134 | Cesium-137 |
|-----------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 100603-GPJ-01 | U-1 | Male / 9 | 1.04 ± 0.26 | 1.22 ± 0.28 |
| 100603-GPJ-02 | U-2 | Male / 16 | 0.76 ± 0.21 | 0.78 ± 0.22 |
| 100603-GPJ-03 | U-3 | Male / 6 | 0.76 ± 0.27 | 0.62 ± 0.23 |
| 100603-GPJ-04 | U-4 | Female / 8 | 0.41 ± 0.20 | 0.43 ± 0.19 |
| 100603-GPJ-05 | U-5 | Female / 9 | 0.91 ± 0.23 | 0.93 ± 0.23 |
| 100603-GPJ-06 | U-6 | Male / 6 | 0.80 ± 0.27 | 0.88 ± 0.27 |
| 100603-GPJ-07 | U-7 | Male / 7 | 1.00 ± 0.27 | 1.30 ± 0.30 |
| 100603-GPJ-08 | U-8 | Female / 8 | 1.13 ± 0.34 | 1.19 ± 0.35 |
| 100603-GPJ-09 | U-9 | Female / 8 | 0.70 ± 0.20 | 0.90 ± 0.22 |
| 100603-GPJ-10 | U-10 | Male / 13 | 1.06 ± 0.29 | 1.22 ± 0.30 |

Editor



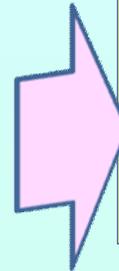
Name
Antoine BEHNOLLIN



事例(3) 福島の子どもたちの内部被ばく調査

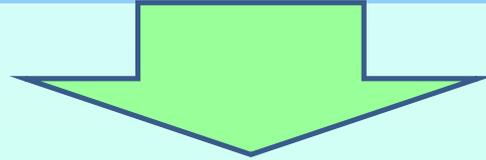
| 日付 | 項目 |
|-----------|--|
| 7月22日 | 第1回目測定者のフォローアップ測定、5名新たに追加測定 |
| 8月末 | フォローアップ測定で9名は減少するも1名が横ばいなし10%程度増加した。 |
| | 追加で測定した5名のうち1名から、これまで2回の測定の最高値が出た。 |
| 9月7、9日 | 記者会見で公表。「福島での日常生活では追加的に内部被ばくをすることがある」 ⇒ 避難の重要性、生活上の注意の喚起。 |
| 9月4、7、14日 | 福島市内にて「内部被ばくと尿検査結果」セミナーを実施 |

- 福島での日常生活では吸気、飲食物からの追加的内部被ばくがあることが明らかになった。
- より広範な内部被ばく調査が必要。
- 予防の観点での内部被ばく検査が必要。
- 内部被ばく低減のためには避難が有効である。(9月7日記者会見資料)



これまでの活動経過から 学んだこと・感想

今この瞬間も被ばくは続いている。
子どもたちから被ばくによる被害を出さないために、
一刻も早く、一人でも少なく、1マイクロでも少なく
の思いで活動をして来た。



- “測定してみる、実態を把握する”ことでやるべきことが見えてくる。
- 市民の側からの不安、危惧を大切にすることが重要。
- 自ら測ることで私たち自身が感度を上げ、知識と技術を身につけることができる。
- 私たち市民の力だけでは解決できない。世論と行政を動かすことが重要。信頼できる専門家の力、信頼できるデータが大事。
- 目的を実現するために、報道関係者に調査結果を積極的に知らせる。

今後の課題

子どもたちを放射能から守るために。

- 国や自治体の「除染」キャンペーンに惑わされない。
⇒ 「除染」の効果の検証、監視の継続。
- 内部被ばくの実態、実態が隠ぺいされる可能性。
⇒ 内部被ばくの実態調査。被ばく予防につながる調査。
- 国・行政の測定、対策は子どもへの健康被害防止最優先になっていない。
⇒ 子どもの被ばく最少化の立場から測定、調査を継続することが重要。
- 避難範囲拡大、自主避難者支援の動きがまだまだ小さい。
⇒ 子どもの被ばく最少化のために動いている団体、個人との連携強化。

ありがとうございました。